

○ 本校の概要

◎学校教育目標 ～夢をもって 未来をきり拓く 中萩中の子ども～
 ・よく考える子...主体的対話的で深い学びの充実と学力向上 (学習規律の定着、指導技術の向上、体験学習、ICTの活用、外国語教育)
 ・思いやりのある子...いじめ、不登校への未然防止、自己肯定感、有用感もてる指導、あいさつ、言語環境の充実、異学年交流、キャリア教育
 ・たくましい子...体力向上、食に関する指導
 校内研究主題：自分の考えをもち、伝えようとする児童の育成 (物語文における「発問」の工夫)
 国語教育の充実 (読書活動の充実) (読書活動の推進) (読書活動の推進) (読書活動の推進)

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	児童アンケート「授業では自分の考えを伝えたり、友達の話の聞いたり、友達と話したりしている。」の肯定的回答 (そう思う、思う)が 4: 8割以上 3: 7割以上 2: 6割以上 1: 6割未満	4: 3:		A	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。		3:		B	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4: 対象となる全学級 (全教員) で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。	4: 対象となる全学級 (全教員) で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。		2:		C	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。		1:		D	
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 対象となる全学級 (全教員) で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。	4: 学期に2~3回知らせた。(0%) 3: 学期毎に知らせた。(75%) 2: 年度間に1回は知らせた。(15%) 1: お知らせできなかった。(9%) 4: 対象児童・生徒への出席を全教員が聞きかた	4: 児童の割合 8割以上 3: 児童の割合 7割以上8割未満 2: 児童の割合 6割以上7割未満 1: 児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:		A		
	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 80%以上の教員が働きかけた。 2: 60%以上の教員が働きかけた。 1: 60%以下の教員が働きかけた。		2:		B			
	学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。		1:		C			
	授業改善推進プランを、授業に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。		1:		D			
プラン3 豊かな心の育成	読解力の向上のため、読書学習書や図書ボランティアによる本の紹介、図書室だより等の作成により、読書月間での読書平均冊数を12冊以上にする。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。		4: 3: 2: 1:			A		
	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4: 学期に2~3回 (年間6回) 以上行った。 3: 学期に1回 (年間3回) 以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4: 児童の割合 8割以上 3: 児童の割合 7割以上8割未満 2: 児童の割合 6割以上7割未満 1: 児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:		A		
	道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。		3:		B		
	学校生活調査 (メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。		2:		C		
プラン4 体力の向上と健康の増進	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を大きく見ます。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4: 必要に応じて必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3: 必要に応じておこなった会議を実施した。 2: 必要に応じておこなった会議を実施しなかった。 1: 必要に応じてほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4: 児童アンケート「自分にはいいところがある」の肯定的な回答の割合	4: 3: 2: 1:		A		
	キャリアパスポートを活用した学期ごとの振り返りや縦割り班活動、学年や学級で児童が活躍できる場を設け、自己肯定感、自己有用感を育めるようにする。	4: 行った 3: おおむね行った 2: あまり行わなかった 1: 行わなかった		4: 3: 2: 1:		B			
	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。		4: 3: 2: 1:		C			
	給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。		4: 3: 2: 1:		D			
プラン5 魅力ある教育環境づくり	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	4: 児童アンケート「進んで体を動かしている」と肯定的な回答をした児童の割合と保護者アンケート「学校は、健康教育を推進し、体力の向上に努めている。」で肯定的な回答をした保護者の割合	4: 3: 2: 1:		A		
	マラソン大会や長縄大会などの体力向上の取組や日頃の体育の授業で、体力の向上が実感できる指導を工夫する。	4: 工夫した 3: おおむね工夫した 2: あまり行わなかった 1: 行わなかった		4: 3: 2: 1:		B			
	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4: 児童・保護者アンケートともに「工夫して、わかりやすく教えている」に肯定的な回答をしたそれぞれの割合	4: 3: 2: 1:		C			
	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4: 学期に2~3回 (年間6回) 以上行った。 3: 学期に1回 (年間3回) 以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4: 9割以上 3: 8割以上9割未満 2: 7割以上8割未満 1: 7割未満		3:		D		
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4: 月1回以上行った。 3: 学期に2~3回行った。 2: 学期1回以上行った。 1: 実施しなかった。		4: 3: 2: 1:		A		
	校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4: 月1回以上行った。 3: 学期に2~3回行った。 2: 学期1回以上行った。 1: 実施しなかった。		4: 3: 2: 1:		B			
	校内の環境整備、教室や廊下の掲示を工夫し児童が明るく、学習に集中できる環境を整える。	4: 行った 3: おおむね行った 2: あまり行わなかった 1: 行わなかった		4: 3: 2: 1:		C			
	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 月1回以上更新した。 3: 学期に2~3回更新した。 2: 学期1回以上更新した。 1: 更新しなかった。	4: 保護者アンケート「学校は、保護者や地域と一緒に協力して教育活動を行っている」に肯定的な回答をした割合	4: 3: 2: 1:		D			

○ 「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○ 記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○ 学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を